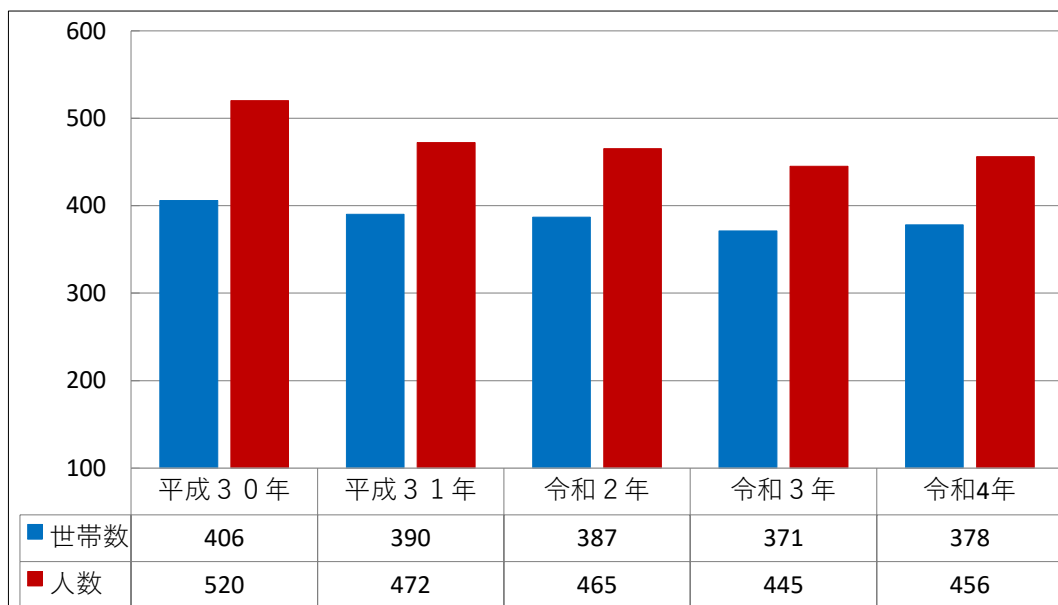


5. 社会福祉、保健、環境

(1) 生活保護の状況

① 生活保護の世帯、人数の推移

(各年4月1日現在)



生活保護世帯は、前年より若干増加している。無年金や低年金の高齢者の増加、新型コロナウイルス感染症の経済的影響等による預貯金の減少等が要因にある。

② 生活保護の実人数及び保護率の割合

(※令和4年12月末)

	実人数(人)	半島における割合(%)	県における割合(%)	保護率(%)
島原市	462	34.4	1.8	1.10
雲仙市	556	41.4	2.1	1.38
南島原市	324	24.2	1.2	0.80
半島3市	1,342		5.1	1.09
長崎県	26,190			2.04

島原市は、長崎県内と比較すると、実人数に占める割合は約1.8%程度となっている。

(2) 保育所・幼稚園の状況

(島原半島3市、令和5年1月1日現在)

	施設数(園)(※1)				半島での施設設置割合(%)	入園児数(人)			
	計	保育所	幼稚園	認定こども園		計	保育所	幼稚園	認定こども園
島原市	26	19	0	7	30.2	1,721	1,065	0	656
雲仙市	29	19	0	10	33.7	1,660	947	0	713
南島原市	31	22	0	9	36.1	1,498	913	0	585
合計	86	60	0	26	100.0	4,879	2,925	0	1,954

半島3市の中で、島原市は、施設数が最も少ないが、入園児数は多い。

(※1) 施設数は、休園中の園を除く。(島原市：幼稚園2園、雲仙市：保育所1園)

5. 社会福祉、保健、環境

(3) 医療の状況

① 医療施設（精神科病院及び一般診療所を含む）

（※令和2年10月1日現在）

	病院数	病院数の半島 内割合（%）	病院病床数 （床）	病床数の半島 内割合（%）	人口対千人 病床数（床）
島原市	48	39.0	1,310	48.9	30.2
雲仙市	40	32.5	779	29.1	19.0
南島原市	35	28.5	591	22.0	14.0
半島3市	123		2,680		21.1
長崎県	1,496		28,940		22.2

島原市の医療施設数（病院、病床）及び人口対千人当たりの病床数は、半島3市の中で最も多く、人口対千人当たりの病床数については長崎県と比較しても多い。

② 医師数

（※令和2年12月末現在）

	医師数（人）	医師数の半島 内割合（%）	人口対千人 医師数（人）
島原市	125	47.7	2.9
雲仙市	84	32.1	2.0
南島原市	53	20.2	1.3
半島3市	262		2.1
長崎県	4,399		3.4

島原市の医師数及び人口対千人当たりの医師数は、半島3市の中で最も多いが、長崎県と比較すると少ない。

③ 歯科医院・歯科医師数

（※令和2年12月末現在）

	歯科医院数	医院数の半島 内割合（%）	歯科医師数 （人）	医師数の半島 内割合（%）	人口対千人歯 科医師数
島原市	29	39.2	42	41.2	1.0
雲仙市	22	29.7	31	30.4	0.8
南島原市	23	31.1	29	28.4	0.7
半島3市	74		102		0.8
長崎県	716		1,203		0.9

島原市は、どの項目も半島3市の中で最も多く、人口対千人当たりの歯科医師数については、県よりも多いことがわかる。

5. 社会福祉、保健、環境

④ 薬剤師の状況

(※令和2年12月末現在)

	薬剤師数 (人)	薬剤師数の半 島内割合	人口対千人 薬剤師数
島原市	111	52.4	2.6
雲仙市	55	25.9	1.3
南島原市	46	21.7	1.1
半島3市	212		1.7
長崎県	2,954		2.3

島原市の薬剤師数及び人口対千人当たりの薬剤師数については、半島3市の中で最も多く、県と比較しても多いことがわかる。

5. 社会福祉、保健、環境（環境）

（4）ごみの状況

① ごみの排出量とリサイクル率（令和3年度）

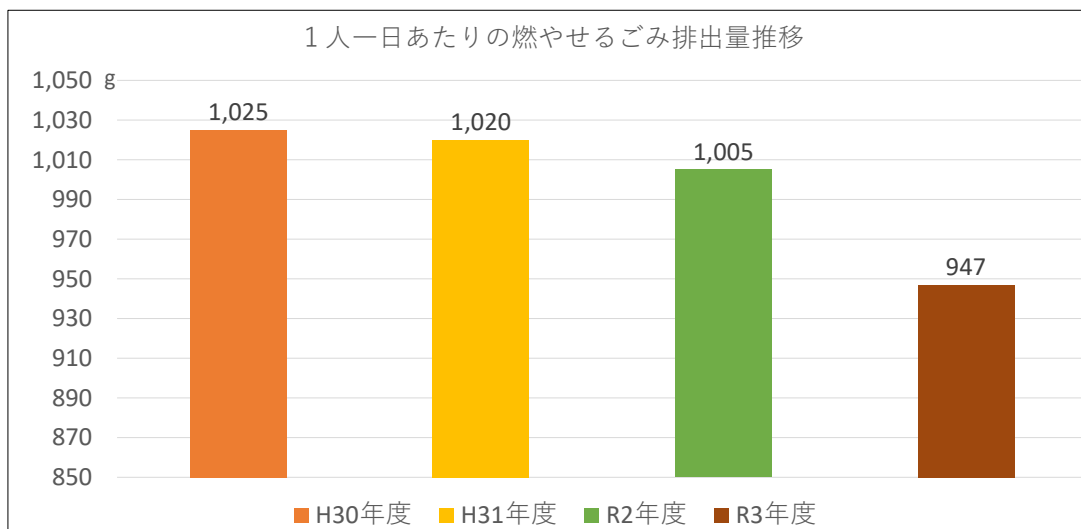
	年間排出量 (t) (※1)	一人1日当たり 排出量 (g)	リサイクル率 (%) (※2)
島原市	17,719	1,110	21.5
雲仙市	21,629	1,401	15.7
南島原市	16,567	1,040	16.9
半島3市	55,915	1,181	18.2
長崎県	468,216	971	16.3

島原市のリサイクル率は、半島3市の中で最も高い。

(※1) 年間排出量・・・可燃ごみ、資源・不燃ごみの合計

(※2) リサイクル率・・・廃棄物からの資源回収率のこと

② 4万人のごみ減量プロジェクト



島原市では、1人一日あたりの燃やせるごみ排出量を850gに抑えることを目標として、令和2年4月に「4万人のごみ減量プロジェクト」をスタートした。平成30年度の排出量から、1人一日缶コーヒー1本分(175g)を削減できれば目標達成となる。令和3年度で78g減量。目標まであと97gである。